

令和5年度第2回大洗町地域公共交通会議 議事録

日 時： 2023/12/7(木)13:30～15:30

場 所： 大洗町役場 3F 会議室 1・2

出席者： 関会長、山田副会長、山戸委員、大里委員、小林健委員代理、飛田委員、吉川委員、
鬼沢委員代理、栗田委員、服部委員、國下委員、玉村委員代理、小林美弥委員、
大川委員、岡村委員、長谷川委員、深作委員、見澤委員、平根委員、山本委員代理
事務局

大洗町役場まちづくり推進課 海老澤課長、菅谷係長、深谷
株式会社アルメック

資 料： ①次第

②出席者名簿

③席次表

④資料 1_検討経緯・協議内容

⑤資料 2-1_アンケート調査結果概要(町民アンケート)

⑥資料 2-2_アンケート調査結果概要(観光客アンケート)

⑦資料 3_計画の基本的な方針・施策及び目標(案)

⑧資料 4_地域公共交通計画の構成(案)

⑨参考資料 1_町民アンケート集計結果

⑩参考資料 2_観光客アンケート集計結果

⑪参考資料 3_アンケートから把握できる特性

⑫参考資料 4_大洗町地域公共交通会議設置要綱

⑬参考資料 5_委員名簿

1. 開会

2. 会長挨拶

○前回会議の3月から大分時間が経過した。5月にコロナが5類に移行し、日常が戻ってきた。9月の海上花火大会や、先日のあんこう祭りでは2日間で10万人の来場があったことなど、観光客も戻ってきている。

○夏にかけて町民、観光客アンケートを実施し、データが多く取れた。今回の会議ではその報告を行い、共通認識を持ってもらいたい。また、方向性や施策について、事業者をはじめ委員の方々に議論してもらいたい。

3. 協議事項

(1) 町民・観光客アンケート結果について

○(資料1、資料2-1、資料2-2について説明)(事務局)

○アンケートによりニーズや課題が浮き彫りになった。まず、町内循環バスの満足度について、担当課であるまちづくり推進課としてはどう考えているか。(会長)

⇒利用は一定程度多いと考えている。アクアワールドの乗降者数は1万人を超えており、商店街のバス停も一定数の利用がある。利便性が高まるよう考えていきたい。(事務局)

○アンケート結果について交通事業者としてはどうか。(会長)

⇒不満な点として便数はどの地域でも挙げられる。運賃という回答が少ないのは少し意外である。採算を考えると便数を増やすのは難しい。10月に減便もしている。乗る人がどれくらいいるかで便数を設定している。利用者と便数はいたちごっこではあるが、採算面から、利用者が増えたら便数を増やす。地域からの支えがあれば採算的に増便もあり得るかもしれない。運賃の許容水準が200円というのも同様に、採算面から難しい。また、運転手不足が深刻であり、喫緊の課題である。2024年問題もあり、増便というよりはむしろ減便が続くと思われる。会社としては採算性のある事業に投資する。なお、今年の大洗線は2019年より良い成績となっている。町内での利用が増えているようである。採算は良い状況である。(委員)

⇒他の交通と異なり外と大洗を結ぶ役割であり、通勤・通学利用が多い。道路渋滞に左右されないことを長所として認識してもらっている。便数については利用減のため増やしづらく、また水戸駅のホームが1つだけという事情もある。車両については、新型車両に不具合があり思うように増やせていない状況で、不具合が解消すれば増結できるようになる。花火大会の帰りの時間帯には混雑や待機列が深刻で迷惑をかけたが、スムーズに運んで鉄道の良さを伝えられるようにしていきたい。(委員)

⇒タクシーもドライバー不足で台数を出せない状態である。(委員)

⇒何とかしなければいけないと思っている。提案としては、水戸市で千円タクシーとして行われている、地域ごとに1台借り上げる方式が良いのではないか。予算も比較的低廉で、国土交通省への申請で50%まで安くなる。大洗の場合は観光客と住民で分けないといけないと思われる。深夜については収入が最低賃金を下回ってしまう状況がある。これも同じように借り上げて1台確保する形はどうか。デマンドタクシーの10分の1程度の予算でできる。水戸市や結城市の事例がある。(委員)

⇒施策としても議論していく。(会長)

⇒アンケート結果は興味深い。不満な点として運賃が最も大きく、これをどう下げるかである。また、税金投入もやむを得ないという意見も多い。そうすると、デマンドか、先ほど委員からもあったように千円タクシーが考えられる。先日結城市でも開始したが、結城市では水戸市と異なり65歳以上という年齢制限を設けており、目標とした収支率30%を既に超えている。水戸市では年齢層をしていないため30%には至っていない。一括定額運賃が大洗町には適していると思う。検討していただきたい。(委員)

- 高齢者の回答が多いが、お買い物ツアーの状況も含めアンケート結果をどう考えるか。(会長)
- ⇒お買い物ツアーの回転率が上がってきている。利用者は85歳以上が多い。大洗町は65歳以上というより75歳以上が多い。ツアーは7名しか乗れず、回数制限もあるが、毎回満員に近い。あとはタクシーを使うしかないが、国民年金で生活する世帯には経済的に厳しい。福祉として弱者に対応し、用足しのできる交通の確保を考えていく。(委員)
- 免許返納者の対策として何かあるか。(会長)
- ⇒返納時に、返納後の足を心配される。そのときにどういう手段があるかの案内まではできておらず、それぞれの市町村で確認してもらうように言っている。大洗町で何かあれば案内することはできる。(委員)
- 観光客アンケートについて、関係機関としてはどうか。(会長)
- ⇒困ったこととして渋滞が挙げられているが、年に数回ながらオーバーツーリズムの状態になる。いくつかの観光施設を回るようなものがあると良い。イベント時の対応も事業者任せではなく、行政も一緒に考えていければと思う。(委員)
- ⇒買い物支援バスは十数年前に商工会で試験的に始めたものだったと記憶する。そのときも大きな商業施設などが挙げられたが、本当は商店街を活性化したい。商店街を活性化しつつ公共交通の利用促進をしたいが、いま商店街を一番利用しているのは町外のガルパンファンである。コロナ禍後イベントが再開されると戻って来るのではないかと。町内を巡るような施策もしていきたい。また、ファンの多くは駅から自転車を利用しているようなので、その点も公共交通との連携をして活用していきたい。(委員)
- ⇒他の自治体でもバスに対する意見として便数などは挙げられる。大洗は観光客がいるので、町民の生活リズムに合わせた朝夕だけでなく、日中にも観光客の需要がある。アレンジすればうまくできるのではないかと。(委員)
- ⇒不満として便数が挙げられているが、事業者としては運転手不足もあり増やしづらい。国としてもその現状を把握しており、二種免許取得への補助などを行っている。域内に公共交通がない自治体もある中、大洗町は町内に路線が通っているので、自家用車の活用施策の前に既存の交通事業者と考えてほしい。(委員)
- ⇒弊社はフェリーなので、他の交通を利用してきてもらう形になる。今年の実績はコロナ禍から復活した。マイカー利用が多く、北海道の夏のハイシーズンが大洗と被るため、渋滞が解消されると我々としても良い。協力してほしい。(委員)
- ⇒道路管理者としては、渋滞や定時性確保への期待が意識される。公共交通への転換も改善策になる。また、観光客の流動についてはひたちなか市とも一緒に動いていそうである。(委員)
- ⇒各公共交通機関の利用頻度について、月1回以上の回答者が少ないが、逆に言えばこれを増やしたいとなったとき残りの大部分の一部にでも働きかければ増やせる。ニッチなニーズを拾い上げていくことで増える可能性がある。また、鉄道については一定の利用があり、駅のニーズも高い結果になっているので、駅を中心にしていくことが重要である。観光客については、想像よりは車依存ではない。ガルパンファンが多いのかもしれないが、こちらも細かいニーズに遡求

できる。まだ分析できることがあるはずである。(委員)

(2) 計画の基本的な方針・施策及び目標(案)について

○(資料3について説明)(事務局)

○行政の計画ではあるが、事業者と共同作業しないと実現できないのが公共交通の特徴である。(会長)

○町内循環バスの再編についてはp2が方向性かと思うが、まちづくり推進課としてはどう考えているか。(会長)

⇒交通空白地域の解消をまず目指す。また便数が少ない地域に対しても午前、午後それぞれで行き来できることを目指す。(事務局)

⇒不便地区とあるが、不便の定義も難しい。p2が再編のイメージで間違いないか。(会長)

⇒そうである。町が目指す形である。(事務局)

○交通事業者としてはどうか。(会長)

⇒町内循環バスについては受託しているのみであり、町で考えるものである。スクールバスも兼ねているので、上手く設定できると良い。観光客からは交通系ICが使えないという意見がたまにあるが、100円なら良いのではないかと思う。また、コミュニティバスでは珍しくバスロケを入れているが、上手く使われていないのではないかと心配している。路線バスについては、町内の移動と町外との行き来のどちらを優先するか。町内の方向けなら大洗駅に乗り入れる意義があるが、それで時間が取られると町外へ行く人が自家用車に流出する可能性もある。時間帯で分けるなど考えていく。交通安全上問題と思われるバス停留所に指定されている公園墓地入口については、移設したいが移転先が見つからず、ガードレールの都合などもあり、止まってしまっている。他の事例として、利用が少ない場合は廃止もあり得る。片付けたい問題ではあるので協力していく。(委員)

⇒要望として交通系ICが使えないという指摘が多い。過去に検討したことがあるが、導入コストや維持コストが高く、踏み切れずにいる。また、先述した新車両については2025年など先の話になるので、当面は今ある車両を使っていく。(委員)

⇒65歳以上1割引や500円券の発行などが考えられる。議論の進むライドシェアは、ある面では正しいのかもしれないが、二種免許が不要になるのはどうなのか、また個人契約で社会保険がないことなど、それが交通として、働く人や乗る人にとって良いことなのかもよくよく考えてほしい。(委員)

○新たな交通についてはどうか。(会長)

⇒グリスロについては資料に挙げられているタイプの他に、もっと小型のゴルフカートもある。軽自動車よりも小さく細い道も走行できるので、使い方によっては観光にも狹隘路にも活用できる。自動運転はまだ難しく、大洗町では渋滞もあるのでなおさらである。AIについては、導入している自治体からは、AIタクシーの利用の仕方が難しく、必要な層に届いていないという意見が聞かれる。高齢者が使っておらず、実態と合っていない状況で、勧められない。ライドシェア

についてはここではコメントを控えるが、場合によってはタクシーの存続も厳しくなる可能性があり、動向を注視している。(委員)

⇒ライドシェアについては検討を進めているところであるが、大洗町はバスもタクシーもあるので、既存の事業者と話してほしい。交通安全上問題と思われるバス停留所については、現在 A ランクをゼロにしているところだが、今後 B ランクもなくなっていくことになる。移設が困難な例も多いが、ガードレールの話などは、バス停移設に補助金も出ているので活用を検討してほしい。(委員)

⇒交通安全上問題と思われるバス停留所の対応については町も主体に入っている。(会長)

⇒バス停が位置するのが町道である。町も協力していく。(事務局)

○他に意見はあるか。(会長)

⇒交通安全上問題と思われるバス停留所については協力してくれるとのことで安心した。AIは自社でも導入している事例があるが、スマートフォンを使える人は確かに少ない。ただ、今の 70 代はスマートフォンを使えるので、何年かすれば解消するのではないか。情報案内については自社でもマップを作成しているが、継続性に難がある。町で積極的に各施設に置くなど期待している。(委員)

⇒情報を一元的にまとめることは重要である。(会長)

○学校教育の立場から確認として、町内循環バスはスクールバスとしても活用されているが、子どもたちが利用しているという表現がないので気になる。(委員)

⇒町民の通勤・通学利用という表現に含んでいる。(事務局)

⇒切り捨てるなどは考えていない。(会長)

○p10 の利用促進について、写真にあるバリアフリー教室を運輸支局でも実施している。水戸市内の小学校でも行った。小学生のときにバスに触れ合ったり心のバリアフリーを知ったりすることは意義があると思われる。興味があれば運輸支局に声をかけてほしい。(委員)

○目標については施策が具体化していないと議論が難しいが、何か意見はあるか。(会長)

⇒目標3について、数値目標であれば利用者数が良いのではないか。利用者の中で満足度が上がっても利用者数が減ることもあり得る。(委員)

⇒検討する。(事務局)

○全体としてどうか。(会長)

⇒これまでの議論の内容で良い。施策⑨、⑩は様々な事業者主体として協力、連携してもらう必要がある。例えば町内循環バスのバスロケを町のホームページに掲載することも技術的には可能なはずである。どう分担していくかが事業計画で出てくると良い。(委員)

⇒観光客アンケートで情報周知が挙げられている。観光協会のホームページでも交通の案内などを出しているが、伝わり切っておらず、課題と感じている。交通以外の課題も挙げられているので対応していく。(委員)

⇒町民アンケートでバスを利用したことない回答者が 90%以上となっているが、一方で車の運転ができなくなったらバスを利用するという回答が多くなっている。この通りであればバスの利

用は増えていくと考えられる。将来を考えながらやっていくようにしてほしい。(委員)

⇒生活環境課では免許返納者にバスの利用券を渡しているが、返納者のうち申請する方は半分程度で、そのうち利用されるのは2割程度である。バス停が遠いなど利用されにくいようなので、再編に期待する。(委員)

⇒アンケートの回答率が低いのが少し残念である。公共交通を使うのは子どもか免許を返納した高齢者あるいは障害者だが、町の新規介護申請平均年齢は 83 歳であり、そもそも 80 歳を超えると日常生活に介護が必要になってくる。そうした層はバスが使えないので、利用率は増えないのではないかと。町民の特性として、バスに自分の予定を合わせることを嫌う傾向もあると思う。また、不便地区でも必要な人は既に使っている。(委員)

(3) 地域公共交通計画の構成(案)について

○(資料4について説明)(事務局)

○次回の地域公共交通会議は1月30日に開催する。計画の素案を審議する。今回の資料に質問や意見があれば町まちづくり推進課に寄せてほしい。(会長)

以上